

遠くを見据えて、誠実に仕事を

児童数千人を超える大規模校に勤務していた時に会ったT校長先生は、まなざしがとても優しい先生でした。弱い立場の教職員の味方であり、問題が生じたときの決断は素早く、困ったときには救いの手を差し伸べてくださいました。校長先生から教えていただいた「学校教育は意図的、計画的、継続的に実践されるものである。」「子供には目当て意識をもたせること、教職員は見届けを徹底すること」「仕事は先を見通し、並行して行う。」「子供は身近な大人に感化されて成長する一師弟同行」など、今もこれらのことを基に自校で実践し、折に触れて校長先生の教えを若い先生に話しています。

中でも特に心に残っている言葉が、「自分のクラスだけとか、小学校のことだけを考えているのは間違っている。子供が大人になってこの地域の一員として生きるまでを考えたい。この地域をもっとよくしたい。」と言われたことです。校長先生のこの言葉は、教育の在り方を考えるときの私の支えです。

当時、勤務していた学校では、落ち着きのないクラスがありました。その時には、担任だけの問題ではなく、学校全体で取り組むことの必要性を説かれました。また、中学校の荒れは小学校の課題でもあり、小学校で指導すべきことは何かをいつも問われました。問われることで、よくなるためにはどうしたらよいかとそれぞれの立場で方法を考え、全校体制で取り組みました。やがて学校が落ち着いてきたことを実感しました。

しかし、学校をよくするための手段が目的になってしまい、日々を「こなしていく」だけに終始しがちになっていたのかもしれない。もっと遠くを見据えて、本当の教育とは何かを考えなさいと言われたような気がします。

「子供が自立するには、どんな力を付けてやればよいか。どんな人間になってほしいか。」など、教師自身が夢や願いをしっかりと持ち、誠実に情熱をもって仕事をする事の大切さを教えていただきました。感謝しています。